

ティーチング・ステートメント

所属 全学共通教育部

名前 塚越 久美子

更新日 2024年3月22日

【責任】

全学共通の基本教育科目の内、汎用能力を涵養する科目群～初年次開講の「日本語表現法Ⅰ（読解・論文）」、「日本語表現法Ⅱ（分析・考察）」、2年次の「日本語表現法Ⅲ（討論・発表）」を担当している。またキャリア支援を行う3年次の「ビジネススキルⅠ」において、就職試験（SPI試験）の言語能力分野対策講座も担当している。

2024年度からHUSスタンダード科目「日本語表現法（作文・論文）」、「日本語表現法（読解・分析）」を担当する。

【理念】

大学生生活全般の学びに必要な汎用能力のうち、最も重要な能力の一つである「日本語力」をつける授業をとおして、3つの力すなわち「自らの考えを構築する思考力」、「他者の多様な考えを受容できる理解力」、「社会の中で円滑なコミュニケーションがとれる表現力」—を育成していきたい。

また、単なるコミュニケーションツールとしての日本語の知識にとどまらず、学生の卒業後の人生の糧となるような事柄も教えたい。例えば、読書から生きる指針を得たり、自身の視野を広げ、人生の楽しみを増やしたりというような言葉との向き合い方のきっかけを作ることである。

【方針・方法】

上記の理念の実現を目指し「日本語表現法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の授業では、「思考力」「理解力」「表現力」「語彙力＝言葉の知識」の向上のため、以下の方法で教育実践をおこなっている。

◆方針1. 言葉の基礎知識を身につけさせる

- ・語彙力をつける問題演習……毎回の授業で基礎的な語彙（同意語、反意語、慣用句、敬語の知識）の問題演習を行い、確認テストを行う。

◆方針2. 自分の考えを論理的に構築する方法を身につけさせる

- ・文章作成演習……さまざまなテーマで、小論文やレポート作成を行い、自らの考えを論理的に表現する演習を行う。

◆方針3. 他人の考えに興味を持ち理解する力を身につけさせる

- ・文章読解と要約文作成演習……さまざまな文章の読解と要約を行うことで、情報を正確に把握し、多様な考え方を理解する。
- ・小論文やレポートの作成を通して、他者の意見やテーマの背景知識を調べて理解を深める。

- ◆方針4. 社会の中で円滑なコミュニケーションを取れる表現力を身につけさせる
 - ・敬語の使い方の問題演習……円滑な人間関係を築く基礎となる知識を身につける。
 - ・ペアワーク、グループワークの実践……他人に自分の考えが伝わるよう、効果的な説明の仕方を身につける。討論や発表のスキルも身につける。
- ◆方針5. 文章作成のテーマを通して社会に関心を持たせ、問題発見と解決法を見出す力をつけさせる
 - ・小論文、レポートのテーマの背景を知る……テーマの背景に関する知識や情報を検索・収集する。
 - ・背景から問題点を探り、その改善方法、解決方法を考えて提示できる力を身につける。

【評価・成果】

- ・授業評価アンケートで担当する全科目で9割程度の学生が「満足」と回答している。
- ・授業でのルーブリック評価の方法の手法を取り入れた新しいA0入試「新ガリレオ入試」の制度設計への貢献が認められ、2016年度理事長賞を受賞した。

【目標】

〈長期目標2～3年以内〉

- ・初等、中等教育とも接続した効果的な日本語表現力向上のためのプログラムを開発する。

〈短期目標1年以内〉

- ・2024年度より、レポートの評価に担当者全員が共通のルーブリックを使うことにより、公平な評価ができるようにする。
- ・教育手法のトレンドを把握するためにも、常に学会、研究会で新しい理論に触れ他大学の実践から学ぶ。
- ・日本リメディアル教育学会、初年次教育学会の活動の中で、他大学の実践に触れ、自身の教育手法に取り入れることができるよう、さまざまな知見を得る。
- ・学修支援に関わりながら、効果的なリメディアル教育の方法を探っていきたい。